

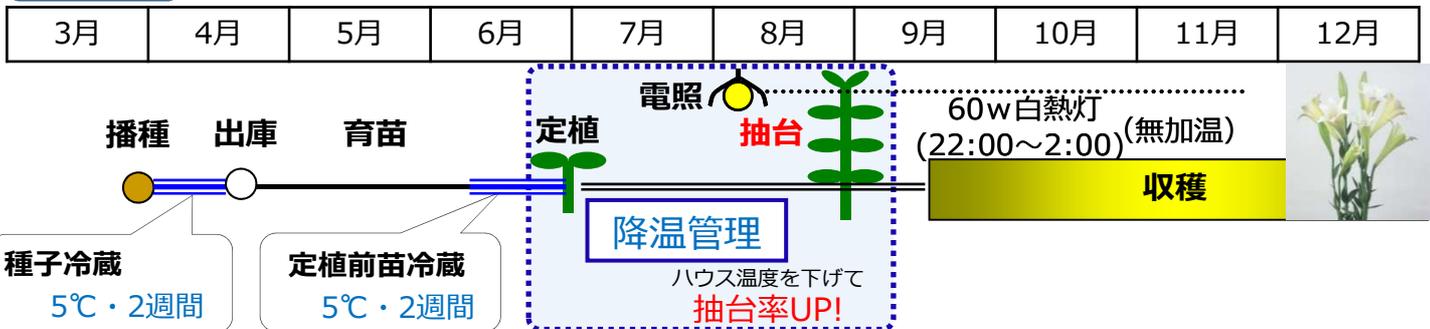
秋冬出荷シンテッポウユリの夏季降温ハウス管理法

背景

- 秋冬出荷シンテッポウユリは他産地の少ない時期に出荷が可能で、**高単価**が期待できる
- 収穫が長期にわたり、**労力分散**が可能
- この作型では、いかに*抽台（茎伸長）させるかが課題で、低温が必要となるため、**定植前苗冷蔵**により抽台率が向上するが、定植後の気温が高いと低下する
- そこで、定植後の降温ハウス管理法として**遮光**および**簡易細霧**の検討を行った

方法

秋冬出荷作型:産地(北栄町)と鳥取県園芸試験場が協力して開発!



抽台率向上を目的に定植後約2か月間**遮光・簡易細霧**処理を実施 (2018~2020年)

処理区

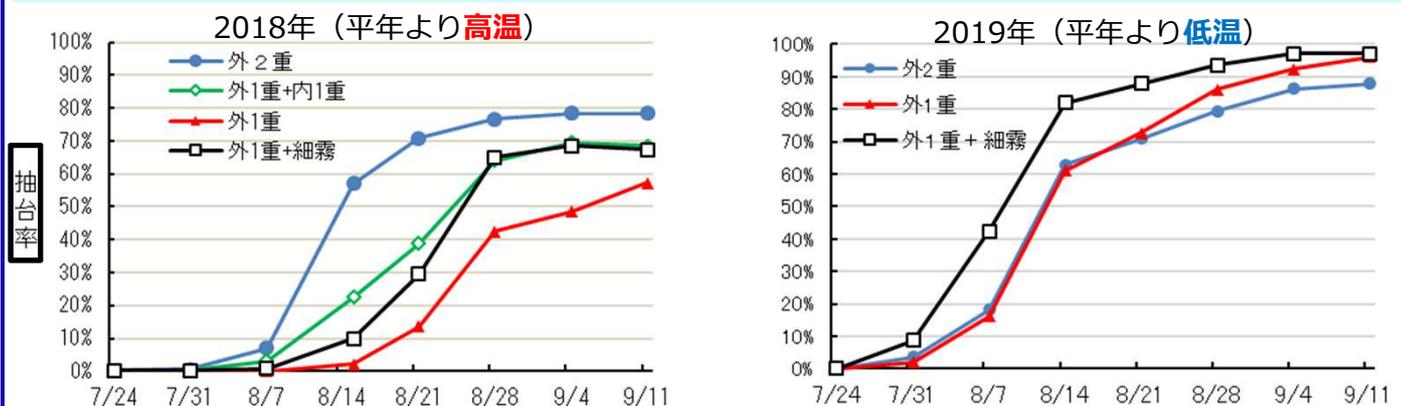
- ・外張り2重遮光
- ・外張り1重遮光+内張り1重遮光
- ・外張り1重遮光+簡易細霧
- ・外張り1重遮光



注)遮光; 週間天気予報最高気温30℃以下が1週間連続時に1枚除去(寒冷紗はいずれも遮光率40%)
簡易細霧; 平均65ミクロンの粒子を散布(高さ1.5m、間隔1.5m)
ハウス内30℃以上で9~16時の間、晴天時は5~10分、曇天時は15分間隔で15秒間散水

結果

- 高温時の外張り2重遮光で抽台率向上
- 簡易細霧処理で抽台率向上 (内張り1重遮光と同等)



☆ 定植後の気温が平年より**高い年**は、外張り2重遮光により、**抽台率が向上**するが、**低い年**は、抽台率向上があまりみられない

☆ 外張り2重遮光をしたまま、1週間以上連続で曇天を経過すると**抽台率が低下**する

☆ 簡易細霧処理により、内張り1重遮光と**同等の抽台率向上**がみられた

留意点: 遮光率40%よりも高い寒冷紗を用いて外張り2重遮光をする場合、曇天が1週間以上続くと本試験結果以上に抽台率低下が予想されるため、注意が必要 (**天候に合わせた管理が必要**)